様式第５号

種 別 [－] [－ －] [－ －] [－ －] [－ －] 原 因 [ ]

身体障害者診断書・意見書（呼吸器の機能障害用）

総括表

氏　名	年　月　日生	男　女
住　所		
①　障害名（部位を明記）		
②　原因となった疾病・外傷名	1 交　通　2 労　災　3 その他の事故　4 戦 傷　5 戦　災 6 自然災害　7 疾　病　8 先天性　9 その他（　　）	
③　疾病・外傷発生年月日	年　月　日・場 所	
④　参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。） 障害固定又は障害確定（推定）　年　月　日		
⑤　総合所見 〔 将来再認定　要（ 軽減化 ・ 重度化 ）・不要 〕 〔 再認定の時期　年　月 〕		
⑥　その他参考となる合併症状		
上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。 年　月　日 病院又は診療所の名称 所　在　地 診療担当科名　科　医師氏名		
身体障害者福祉法第15条第3項の意見　〔障害程度等級についても参考意見を記入〕 障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に ・ 該当する　（　級相当） ・ 該当しない		
注意　1 障害名には現在起っている障害、例えば両眼失明、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には、角膜混濁、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾患名を記入して下さい。 2 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」（別様式）を添付してください。 3 障害区分や等級決定のため、地方社会福祉審議会から改めてお問い合わせする場合があります。		

呼吸器の機能障害の状況及び所見

（該当するものを○でかこむこと）

1　身体計測

身長　　cm　　体重　　kg

2　活動能力の程度

ア　激しい運動をした時だけ息切れがある。

イ　平坦な道を早足で歩く、あるいは緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。

ウ　息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある。

エ　平坦な道を約100m、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。

オ　息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。

3　胸部エックス線写真所見（　　年　　月　　日）

ア　胸膜癒着　　（無・軽度・中等度・高度）

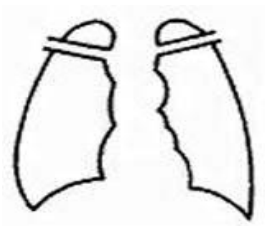
イ　気 腫 化　　（無・軽度・中等度・高度）

ウ　線 維 化　　（無・軽度・中等度・高度）

エ　不透明肺　　（無・軽度・中等度・高度）

オ　胸郭変形　　（無・軽度・中等度・高度）

カ　心・縦隔の変形　　（無・軽度・中等度・高度）



4　換気の機能（　　年　　月　　日）

ア　予測肺活量　　□・□□ L　　（実測肺活量　　□・□□ L ）

イ　１秒量　　□・□□ L　　（実測努力肺活量　□・□□ L ）

ウ　予測肺活量１秒率　□□・□ %　（＝$\frac{イ}{ア}$×100）

測定困難な場合はその理由（　　）

（アについては、下記の予測式を使用して算出すること。）

肺活量予測式(L)

男性 0.045×身長(cm)－0.023×年齢(歳)－2.258

女性 0.032×身長(cm)－0.018×年齢(歳)－1.178

（予測式の適応年齢は男性18-91歳、女性18-95歳であり、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。）

5　動脈血ガス（　　年　　月　　日）

ア　O_2分圧

①　室内気での値　　：　□□□・□ Torr

②　酸素吸入中での値　：　□□□・□ Torr　　（酸素量　　ℓ／分）

イ　CO_2分圧　：　□□□・□ Torr

ウ　ｐＨ　　：　□・□□

エ　採血より分析までに時間を要した場合 □□ 時間 □□ 分

オ　耳朶血を用いた場合：〔　　〕

カ　６分間歩行試験時の酸素飽和度最低値：□□ ％

（注）採血時の吸入ガスは安静時、通常の室内空気吸入時のものであること。なお、O_2分圧については、本人の状況により継続して酸素吸入が必要である場合、酸素量についても記入すること。

6　その他の臨床所見

7　更生医療補装具の必要性の所見